

若者から若者へ

西諸県支会代表 横井 光太郎

平成 27 年 6 月に公職選挙法等の一部が改正され、選挙権は 18 歳に引き下げとなりました。当時、私は選挙に行くことは、遠い未来で関係してくると思って
いた高校 2 年生でした。私が部活動をしているとき、引退した一つ上の学年の
先輩が投票入場券を握りしめ、投票所へ向かっている姿を目のあたりにしまし
た。先輩の後ろ姿は、どこか大きく、意思を強く持って歩いているように感じ、
格好よく見えた先輩の後ろ姿とその日の夕焼けの空をなぜだか今でも鮮明に覚
えています。

選挙に対し、あまり興味がなかった自分も 18 歳になり、選挙権を持つようにな
り、成人になり、社会人になり、周りの環境や関わる人が変わっていく中で、
政治や選挙に対し、思いや考えを持つようになり、興味を抱くようになっていき
ました。

私が、政治や選挙に興味を持つようになったきっかけは、何気なく携帯電話で
SNS を見ていたときに流れてきた言葉です。「選挙に行っていない人が今の政治
に意見をすることは間違っている。」選挙には行っていたが、よく調べずに投票
していた自分も同じように感じ、自分自身をととても恥ずかしく感じました。

自分も皆平等に与えられる権利の中で、思いや考えを投票という形で少しで
も今後の未来の役に立ちたいと考えるようになりました。それからは、インター
ネットを通して候補者の演説を見たり、それを見て考えを持ち、自分の今後や日
本の未来について真剣に考えた上で私に与えられた一票を投じることにしてい
ます。

私は候補者について勉強する際、特に子育て世帯に対する公約に着目して考
えています。私自身、小さい頃に父親を病気で亡くし、県や市の金銭面等の支援
があったおかげで、大変なこともありましたが何不自由なく生活することが出
来ました。しかし、一歩外に出て見れば、大変な思いをしていらっしゃる方は大
勢います。皆が、暮らしやすい未来を目指して私は、政治に参加しています。

ここ近年でよく耳にする「若者の選挙離れ」という言葉、私も数年前までは、
その若者の一員でした。「選挙に行っても何も変わらない。」「どうせ自分が投票
しても意味はない。」そう感じることは、おそらく皆が通る道だと思います。

私は、選挙に行っても候補者を選ぶことが目的ではなく、自分の思いや考えを持

って、未来のために行動しているという事実こそが一番大切なのではないかと思えます。誰が3年前、今のこの時代を想像できたでしょうか。世の中の流れは、常日頃変わり続け、今まで普通に出来ていたことが出来なくなり、逆に今から3年後には、技術が発展し、今できないことが出来るようになっているかもしれません。そんな未来楽しみではありませんか？。

若者の皆さん、少しでいいから一緒に考えてみませんか、興味を持ってみませんか、今後の日本の未来、自分の未来、あるいは近い将来を決めるのは今の自分自身なのです。

選挙に行っても、何も変わらないかもしれない、何の意味もないかもしれない、だがしかし、選挙に行き、自分の思いや考えを投票という形で行動した事実が積み重なれば、きっと明るい未来に進むのではないかと思います。